

第5回まちあるきワークショップ

KURASHIKI WALKING WORKSHOP

まちなか研究室



倉敷芸術科学大学 芸術学部



第5回目となる本ワークショップでは、「まちと生きてきた倉敷者の流儀」をテーマとして、代々倉敷市本町で酒造を営まれている森田酒造の森田昭一郎様を講師にお招きします。先代から伝わる酒造りへのこだわりや倉敷者としての生き方を聞くことで、倉敷というまちのもうひとつの姿を学びます。皆様のご参加、お待ちしております。

まちあるきワークショップ

- テーマ『倉敷しぐさ～まちと生きてきた倉敷者の流儀～』
- ガイド 森田 昭一郎 氏(森田酒造)

[森田酒造]

森田酒造は明治42年創業。倉敷美観地区で唯一の造り酒屋で、森田氏は三代目の店主をされています。素材選びからこだわり抜いて作り出される森田酒造の酒は、多くのお酒好きを虜にしています。



プログラム

- 13:40 集合・開会(倉敷芸術科学大学 まちなか研究室東町)
※受付は13:30から
- 14:00 ワークショップ(森田酒造)
- 15:00 閉会

平成28年

日時

1月13日(金)

14:00~15:00
(受付13:50~)

【参加費無料 / 定員10名まで】

場所

森田酒造

〒710-0054 岡山県倉敷市本町8-8

倉敷芸術科学大学 まちなか研究室東町

〒710-0053 岡山県倉敷市東町1-24

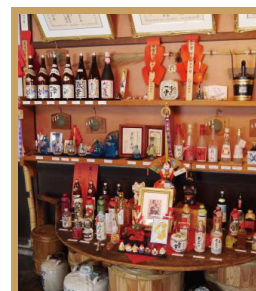
※お越しの際は公共交通機関をご利用ください。

申込み先

まちなか研究室東町 まちあるきワークショップ担当 山口

TEL:086-486-5221

メールアドレス: kurashiki.ws@gmail.com





「僕が子どものころ、まちには電気屋や八百屋や駄菓子屋など人の生活に寄り添った店舗が多く立ち並んでいました」

森田豊店 森田稔氏

本ワークショップでは、地元で暮らす人、仕事を営む人の体験談を交えながらまちを歩くことで、時代とともに忘れられつつある地域の伝統文化や生活文化を学生たちが聞き手となって学び、地域との繋がりを深め、後世へ伝承する担い手となる倉敷若衆への育成を目指しております。

第4回まちあるきワークショップでは「地図にのらない倉敷の思い出」をテーマに、半世紀前の倉敷美観地区の町の姿と人々の暮らしを辿りました。まちのガイドには、幼少時を倉敷で過ごし、現在は本町通りで豊職人として生きる森田豊店の森田稔氏にお招きし、現代地図と比較しながら幼少時代の町の思い出を語っていただきました。



森田氏「僕が子どものころの東町は、道沿いにある豆屋さんの香りと、この道にバスが通っていたことがとても印象的でした。また東町から本町へと歩けば、電気屋や八百屋や駄菓子屋など、まちの人の生活に寄り添った店舗が多く立ち並んでいました」

今では国内外からの観光客の往来も多くなり、道沿いの店舗は観光客向けのお土産屋が増えたと話します。

森田氏「観光客が増加し、町がにぎわうことはとても良いこと。しかし、ここで暮らしている住民たちは騒音やゴミのポイ捨てなど、イベントやお祭りの影に隠れた問題にいつも悩まされている現状があります。ほかにも美観地区で軽視できないのは車の出入りの問題。カーナビで間違っ

路地に入ってきたり、狭い道なので建物の角に車をぶつけてしまう人もいました。倉敷を歩くとき、イベントやお祭りの表面だけでなく、そうした一面もあることを、若い皆さんにはぜひ認識してほしいですね」

まちなか研究室東町拠点での振り返りの際、学生から「森田さんの幼少時代と比べてこの町に暮らす子どもたちの数というのは減っているのでしょうか？」という問いかけがありました。

森田氏「子どもの数は減っていると思います。昔は子供も多く、駄菓子屋や遊び場もたくさんありました。今ではお年寄りも増え、それに伴って空き家も増えつつあります。ここ50年で人の暮らし、まちの抱える問題は大きく変わったように感じます」

人と人との縁の希薄化が危ぶまれる今の時代、まちの人の幼少時代の思い出、住民・職人視線の話などなかなか聞く機会はない。第1～4回目のワークショップを通して、こうしたまちの方との交流は、これからのまちを考えるうえで、非常に重要なプロセスではないかと思いました。

